

野ネズミ・モグラの駆除法

1. 野ネズミの防除法

	物理的手段	化学的手段	生物的・耕種的手段
駆除	捕そ器 (パチンコ、ネズミ取り、カゴワナ) 粘着板	殺そ剤(毒餌) 不妊剤	天敵 (イタチ、フクロウ、ヘビ等)
被害回避	侵入防止ネット 防護ネット 音・音波	忌避剤含有 侵入防止ネット	忌避剤 輪作 圃場の整備(除草)

主な殺そ剤と特徴

有効成分	商品名	剤型	濃度 (%)	毒性	特徴
リン化亜鉛	強力ラテミン	粒剤	3.0	劇	中枢神経を侵し、呼吸困難となって死亡する。中毒は短時間であらわれ3～5時間で死亡する急性殺そ剤である。
	ラテミン リン化亜鉛 1%	粒剤 (2g小袋)	1.0		
クマリン系 (ワルファリン)	水溶性 ラテミン錠	水溶剤 (錠剤)	2.0		内蔵器官の内出血あるいは充血により死亡。目の網膜内出血を起こし、比較的明るいところで死亡する。累積毒性で、4～5日間の連続投与が必要である。
	粉末ラテミン	粉剤	1.0		
ダイファシン	ヤソヂオン	粒剤	0.005	劇	内蔵器官の出血で死亡する。累積毒のため、3～4回の連続摂取が必要である。

急性毒性殺そ剤： ① 短時間でネズミを死亡させるので、野外駆除に便利
② ハツカネズミ、ドブネズミ等、移動性の強いネズミに効果が高い

累積毒性殺そ剤： ① 安全性が高く、他の動物への毒性も比較的低い
② 数日間継続して喫食後に死亡するので、他のネズミの警戒心をやわらげる
③ 一定期間、連続して補充投与することが必要

2. モグラの防除法

わが国で農作物に被害を及ぼすのはモグラとコウベモグラの2種で、関東の平地に見られるのはモグラの亜種のアズマモグラである。肉食であり、直接農作物は加害しないが、採餌活動の時にトンネルを掘るため、農作物の根が切られたり、植えたばかりの苗が倒される等の被害が発生する。モグラによって作られたトンネルがネズミの通路として利用される場合もあり、この被害が大きいこともある。モグラの主な生態は下記のとおりである。

- (1)活動習性：地中が生活の場だが、夜間は頻繁に地上を歩行するようである。日周活動はかなり規則的で、朝と夕方が盛んである。嗅覚、触覚、聴覚は鋭い。
- (2)繁殖：3～5月に交尾、5～6月に2～5頭を産む。寿命は3～4年。
- (3)食性：1日に掘るトンネルは数十mに達し、この間、ミミズ、コガネムシの幼虫、カタツムリ、ナメクジ、クモ、ヤスデ、カエルなどの他、機会があれば小鳥、ヘビ、ネズミなども食う貪欲な食肉獣である。一日に自分の体重の半分から同量以上の餌が必要といわれる。
- (4)トンネル：本道と側道から成っており、その範囲は20～50m四方にわたる。本拠（休息や繁殖のための巣室）は土手などに設けられ、ここから2～3本のトンネルが通じていて、危険が近づくとこのトンネルで逃げる。巣から採食地に至る本道は頻繁に使用されるが、まれにしか通らないもの、一度掘ったあと使われないものもある。トンネルを踏みつぶし、しばらくして元のとおり持ちあがっていたら本道トンネルと考えられる。土が盛り上がったところは遊び穴で、通路ではない。

主な防除技術

捕獲器	刺殺式、挟式、パイプ式等を本道トンネルに設置する
音や振動で 追い払う	モグラ撃退用の発信器や風車の設置 風車はペットボトル等で自作可
臭いで 追い払う	クレゾールや廃油を布切れにしみ込ませて通路に置く ナフタリン、杉の葉、ネギ、シソ等の臭いも嫌うといわれている
餌を減らす	土壌消毒や殺虫剤の土壌混和により、餌となるミミズなどの小動物の発生を抑える
通路を 遮断する	モグラのトンネルは深くても1m程度なので、周囲の地中に深さ50～60cmの網を張るか、深さ1mぐらいの溝を掘って、進路を遮断する

注 意 事 項

1. 野ネズミは移動する動物であり、広域一斉駆除が最も効果的である。従って農地の駆除ばかりでなく、住宅、畜舎、原野が野ネズミの生息地であり、これらを含めた防除が必要である。
2. 野ネズミは雑草が繁茂した環境を好むため、除草など圃場の整備も重要な被害回避対策である。
3. 殺そ剤は農薬なので、容器・ラベル等にかかれた使用方法に従って使用する。また、人畜に対し有害な薬剤が多いので、取扱いには十分注意するとともに、保管にも注意すること。
4. 野ネズミの防除の時期は、秋は巣穴が発見しやすく農閑期でもある11～12月、春では繁殖に入る前の2～3月が適期である。
5. 野ネズミ、モグラの忌避剤としてネマモール粒剤30(主成分:DCIP 30% 劇物・魚毒性A)などがある。効果は1～2か月程度持続する。